

【創作】

ボヤキ講座 — 漫才による世相表現 ②

増田辰良

創作

ボヤキ講座 — 漫才による世相表現 ②

増田辰良

目次

- 1. から8. は前号に掲載。
 - 9. ペットも受難時代
 - 10. 牛に感謝しよう
 - 11. 大変なときだからこそ
- 参考文献

9. ペットも受難時代

- (幸郎) まあ、みんな、聞いてください。
- (幸子) 今度はどんなボヤキなの？ みんな、もう呆れてはるわ。
- (幸郎) みなさんの中にも犬や猫などのペットを飼っていらっしゃる方がいると思います。
- (幸子) 飼うことがブームにもなっただけ、ペットショップも増えているように。
- (幸郎) どれくらい売買されているか、あなた想像できる？
- (幸子) できません。
- (幸郎) あっさり言うなあ。
- (幸子) 教えてくださいよ。

- (幸郎) 新型コロナウイルスの万延で在宅勤務が増えて、ストレスを解消するためでしょうか、ペットを飼い始める人が増えていきます。2019年度の犬と猫を合わせた流通量は、前の年度に比べて、3・4%増えています。数でいえば、約92万6千匹になります。
- (幸子) えーっ。そんなに多くが取引きされているんだあ。お歳寄りからお子さんにまで、みんなに可愛がってもらってえ。
- (幸郎) ところが、然さにあらず。ペットも可哀相な時代になりましたあ。
- (幸子) どうしたの？
- (幸郎) その説明をする前に、あなたにお訊きしますが、猫の出産時期って、いつか解かりますか？
- (幸子) いいえ、考えたことも想像したこともないし。
- (幸郎) 猫は日照時間が長くなると発情期がくる動物です。
- (幸子) なるほどお。じゃあ秋と春に出産ラッシュとなる。
- (幸郎) そうです。で、問題が発生します。
- (幸子) 産まれ過ぎて、捨てられるとかあ？

キーワード…行動経済学、ボヤキ漫才、不条理、コロナウイルス禍

(幸郎) そうです。もう一度、あなたにお訊きしますが、飼っていた猫や犬を捨てたり、殺してしまったら、どんな罰を受けるか、知ってますか？

(幸子) 知りません！

(幸郎) 無知ということを、どうどうと宣言されましたね。

(幸子) 知っているなら、教えてください。

(幸郎) 愛護動物をみだりに殺したり、傷つけた者は5年以下の懲役または500万円の罰金を科す。

(幸子) あら、5年、500万円。

(幸郎) また、みだりにエサや水を与えず衰弱させるなど虐待をした者、遺棄した者は1年以下の懲役または100万円以下の罰金を科す。

(幸子) 捨てたり、殺したりしないで、誰かにもらっていた方がいいわねえ。

(幸郎) しかし、捨てられるものが多い。犬も同様で捨てられて殺処分されてしまう犬猫が多いのです。

(幸子) 自治体がしたくもない殺処分をするのね。

(幸郎) 殺処分される犬猫のうち多くが子猫です。2019年度だけをみても殺処分された犬猫の5割以上が子猫でした。

(幸子) ペットショップで純血種を買わなくても、そんな殺処分される猫をもらったり、捨て猫を連れて帰って飼ってあげるといふ人も少ないから。

(幸郎) そんな問題の一端を解消しようと、国も考えた。

(幸子) あら、国が犬や猫のことまで心配してくれるって。

(幸郎) 心配しているかどうか、その本心は判からないけども、2019年に改正された動物愛護法によると、販売される子

犬や子猫へはマイクロチップを装着することが義務化されたんです(2022年6月)。

(幸子) マイクロチップ？

(幸郎) 登録証のようなものだな。

(幸子) 首輪のようなものをぶら下げるの？

(幸郎) 違います。チップというものを体の一部に埋め込むんです。

(幸子) へーっ。人間も勝手なことをするのねえ。なぜ、装着するのは？

(幸郎) その目的は遺棄の防止や流通経路を把握すること、迷い犬、迷い猫を飼い主の元へ戻しやすくするためだそうです。

(幸子) 数が増えて餌代を工面できなくなったり、世話ができなくて捨てる人も多いから。

(幸郎) どこで生まれて、どんなふうにか売されたのかも判らないことがある。

(幸子) そう。勝手な人間がいるから。

(幸郎) いわば、犬や猫の生命権を保護するという考え方もできるかもしれない。

(幸子) 生命権。あなたにはご立派な知恵ねえ。

(幸郎) んんっ。そう言うあなたとは勉強量が違う。

(幸子) はい、はい。子犬や子猫って、生後、何日くらいなの？

(幸郎) 生後56日前後。

(幸子) ふん。でも、そんな理由のために子犬や子猫がメス(手術)を入れられて、痛い目に合わされるんですね。そのチップって、大きさは？

(幸郎) チップは直径2ミリ、長さは10ミリほどの大きさだ。

(幸子) 手術をするそうだから気になるんですが。

(幸郎) 何が気になる？

- (幸子) 手術は 100% 成功するのでしょね?
- (幸郎) いや、チップを埋め込んでも体外に出てしまうケースもあるよだ。
- (幸子) 生身の肌に埋め込むわけだから、筋肉が動けば外れることもあるのね。
- (幸郎) そうらしい。
- (幸子) でも、それってえ、絶対に装着しなきゃいけないの?
- (幸郎) 義務だからな。義務化された後は、装着してしないと販売者は動物愛護法に基づき改善勧告を受けることになる。
- (幸子) そうなると、店の評判が悪くなって、商売がし難くなる。
- (幸郎) そんなことは知ったことじゃない! 人間が勝手にやったことじゃないか。
- (幸子) そりゃそうだけど。でも、無理にチップを埋め込むわけだから他に悪い影響はないの?
- (幸郎) 深刻なこともある。
- (幸子) まあ、あるの?
- (幸郎) 外れないように深く無理に入れようとして、筋肉や神経に当たり、神経障害を起こしたケースもあったそうだ。
- (幸子) 健全な動物を人間の手で障害者にしてしまった、ってことね。
- (幸郎) そのとおり。それにしても人間はなぜこうも自分たち以外の生き物や自然をコントロールしたがるのかね。
- (幸子) またまたあなたにしてはいい知恵、意見ね。
- (幸郎) 勉強量の違いだ!
- (幸子) でもねえ、聞いていると、これって人間にも応用されそうでき、心配ねえ。
- (幸郎) あなたにしては実にいい想像をしたね。

- (幸子) あら、珍しい、褒めてくれるなんて。
- (幸郎) 犯罪歴のある人間にこのチップを埋め込んで再犯の防止に役立てようという考えもある。
- (幸子) ヒエー! 更生後も、いつまでも犯罪者扱いしようと。監視したいのね。
- (幸郎) そのとおり。もしかしたら、知らないところですでに実用化されているかもしれない。
- (幸子) おお、怖い!
- (幸郎) 子犬や子猫へのチップの装着、動物愛護団体はどう受け止めているのか、賛成か断固反対か? あんたは、どう思んだ!?
- (幸子) わたしに訊かれても、ねえ。
- (幸郎) いいかげんなことばかりしくさってえ、人をバカにしてんのか! 責任者出てこい!
- (幸子) ちょっと、ちょっと。(幸郎の肩をポンポンと打ち)、ここは人じゃなく、子犬や子猫よ。しっかり考えてからしゃべれ!
- (幸郎) ご丁寧な訂正をしていただき感謝します。では、やり直します。
- (幸子) はい、どうぞ!
- (幸郎) いいかげんなことばかりしくさってえ、子犬や子猫をバカにしてんのか! 責任者出てこい!
- (幸子) 出てきたらどないすんのん?
- (幸郎) 謝ったら、ええんやないかあ。

10. 牛に感謝しよう

- (幸郎) まあ、みなさん、聞いてください。

(幸子) 今度は、何をボヤクの？

(幸郎) このところ地球の温暖化を抑えることが人類の課題になっている、ってうるさく言われてますなあ。

(幸子) よく見たり、聞いたります。

(幸郎) 先日も、アメリカの大統領の呼びかけで「気候サミット」がオンラインで開催されました。

(幸子) はい、はい、テレビのニュースで観ましたよ。

(幸郎) そのサミットでは地球の温室効果ガス（二酸化炭素、CO₂）をどれだけ減らすかということが議論され、2030年までに削減すべき各国の目標値も公表されました。

(幸子) 我が国、日本はどれだけ削減する予定なの？

(幸郎) 日本は2013年度と比べて、46%削減すると公表した。

(幸子) では、他の国は？

(幸郎) 2005年度と比べてアメリカは50〜52%、中国は65%削減すると公表した。

(幸子) 一生懸命、その目標を達成するよう努力すれば、地球全体の温暖化を抑制できますけどね。ところで、どこでCO₂は出ているの？

(幸郎) 日本に限定して話すと、CO₂の排出量が多いのは（2019年）、産業35%、運輸19%、商業・サービス17%、家庭14%、発電所・その他15%となっている。

(幸子) それぞれの部門で減らす努力をしているのよね？

(幸郎) もちろん。再生可能エネルギーを増やしたり、石炭火力発電所を減らしたり、ガソリンじゃなく電気自動車を増やしたり、一般の家庭では太陽光パネルによる発電や断熱などの省エネ住宅を作ったりしている。

(幸子) 自分では出している実感がないけどねえ。

(幸郎) 日本人は1人あたり年間7・6トンのCO₂を出している。そのうち7割は移動（1・6トン、21%）、食（1・4トン、18%）、住居（2・4トン、32%）と関わっている。

(幸子) あらう、そんなに出しているの。でも、よく調べてきたわね。口からすらすらと、と出てくるなんて。

(幸郎) 褒めてくれて、ありがとう。

(幸子) こうした人間の努力は当然よね。自然環境にお返しをしなきゃねえ。

(幸郎) なぜ？

(幸子) なぜなら、CO₂の元である石炭も石油も元々は自然の中で作られたもので、人間はその恩恵を受けてきたのだから。

(幸郎) と、言いますと。

(幸子) 石炭は、植物が枯れて堆積し、地熱と微生物の力で何千万年もかけて分解され、土の圧力で圧縮され石化したものだから。植物の光合成の力を借りて作られたエネルギーを使わせてもらっていますからね。

(幸郎) そうだね。

(幸子) 石油もプランクトンなどの生き物の死骸が地熱と微生物の力で何千万年もかけて分解されたものだし。

(幸郎) 人間はたまたまそれらの化石燃料を見つけたにすぎない。

(幸子) そのとおり。

(幸郎) で、今日、わたしが言いたいことは、それ以外にあるんです。

(幸子) 何ですか？

(幸郎) この人間の努力もさることながら、迷惑を受けている動物がいるんです。人間に多大な貢献をしている反面、悪者扱いさ

れているんです。可哀相でえ、可哀相でえー。

(幸子) 悪者扱いされている動物？ さて、それは何ですかねえ？

(幸郎) 「反芻動物」である牛や羊です。が、ここでは牛で話しましょう。

(幸子) 牛？ あのモウモウと鳴いて、美味しい牛乳を出してくれる牛？

(幸郎) そう。メエメエと鳴けばヤギ、ブーブーと鳴けばブタです。

(幸子) どう、悪者扱いされているの？

(幸郎) 牛の出すゲップやオナラには地球の温暖化につながるメタンガスが含まれているのです。

(幸子) メタンガス？

(幸郎) このメタンガスの温室効果はCO₂の約25倍もある。

(幸子) へーっ。

(幸郎) は、臭い！

(幸子) で、ゲップやオナラの量は？

(幸郎) 温室効果ガスの14・5%は畜産業から排出され、このうち牛や羊など家畜のゲップやオナラで出るメタンガスが4割を占めている。

(幸子) へー。よく出しているわねえ。

(幸郎) 感心している場合じゃない。そんなこともあって、外国(約40カ国)じゃあ、肉食を減らす運動(「ミートフリーマンデー」)まである。

(幸子) 牛の口やお尻に栓はできませんからねえ。その代わり肉を食べなければ育てる牛の数も少なくていい。そうすればゲップやオナラの量は減る。

(幸郎) そう。でも簡単には数を減らせないので、エサの中身を改良

しようとしているんだ。

(幸子) エサですか？

(幸郎) 牛が食べる牧草やエサは胃の中にいる約8千種類の微生物の働きで分解、発酵され、エネルギー源となる揮発性脂肪酸を生み出す。その際にメタンガスが発生してゲップとなって大

気中に放出されます。9割はゲップで、残りはオナラから出る。なるほど。でもねえ、美味しい牛肉や牛乳を飲ませてもらっているのに悪者扱いするって、人間も勝手ですよ。

(幸子) なるほど。でもねえ、美味しい牛肉や牛乳を飲ませてもらっているのに悪者扱いするって、人間も勝手ですよ。

(幸郎) そこで、人間はメタンガスを生み出す微生物の働きを抑える

エサの開発にとりかかったようだ。

(幸子) 体はどこも悪くないけど食事療法でゲップやオナラを改善するのね。

(幸郎) そういうことになる。

(幸子) どんなエサを作ったの？

(幸郎) カシューナッツの殻を搾った液体をエサに加えるとある程度、

効果があることを確認した。

(幸子) 人間もうまく考えたものね。

(幸郎) こんな話もある。

(幸子) どんな話ですか？

(幸郎) カナダでの研究によると、「カギケノリ」という海藻を食べさせるとメタンガスの排出量が減るそうだ。乾燥させフレーク状にしたカギケノリを(羊の)飼料に2%ほど混ぜて与えると、85%の削減効果があったそうです。

(幸子) 食べさせるものによって、そんなに削減できるんだあ。

(幸郎) しかし、わたしは牛(や羊)の立場になって、人間に対して言いたいことがある。

(幸子) そろそろボヤキますよー。何を言いたいの？

(幸郎) 自然と出るゲップも屁をこくことも自由にさせてくれんのか！ 牛（や羊）の屁を問題にするなら、自分ら人間の尻の穴にも栓をしろ！ バカ者めが！

(幸子) まあ、大きな声、鼓膜が破けるわ！

(幸郎) いいかげんなことばかりしくさってえ、人をバカにしてんのか！ 責任者出てこい！

(幸子) ちょ、ちょっと待ってー。人じゃなく、牛でしょう。

(幸郎) ああ、そうだった。やり直します。

(幸子) はい、どうぞ。

(幸郎) いいかげんなことばかりしくさってえ、牛をバカにしてんのか！ 責任者出てこい！

(幸子) 出てきたらどないすんのん？

(幸郎) 謝ったらしまいや！と言いたいのですが、この話にはもっといいことがあります。

(幸子) あら、ここで終わりじゃないの？

(幸郎) 終わらない！ to be continued.

(幸子) あらら、ヨコ文字できた。

(幸郎) 人間に食べられる牛のことを思えば、肉の代わりになるものを作ればいい。

(幸子) 肉の代わり？ そんなものが作れるの？

(幸郎) 作れるんだ。

(幸子) どうやって？

(幸郎) 植物を原料として作った肉、植物性人工肉（培養肉）がある。

(幸子) 植物でえ、肉、どう作るの？

(幸郎) 遺伝子工学を応用して、大豆の中にある肉の風味となる「ヘム」

(六)

を生み出す酵母を作り、大豆やジャガイモのたんばく質を醸かさせ、味付けすると、牛肉そっくりの「肉」が作れるんです。

(幸子) へーっ。

(幸郎) その屁も緩和される（笑）。

(幸子) あら嫌だ。

(幸郎) 植物性油脂の手助けもあって、とてもジュューシーで美味しいそうだ。

(幸子) いいんじゃない、代用できるのであれば。

(幸郎) 麹菌を使った発酵食品と同じで健康かつ安心して食べられる。もっと、いいこともある。

(幸子) まだ、いいことがありますか？

(幸郎) いわゆる肉食からこの植物食へ代えることによって、地球の温暖化を抑えることができるんだ。

(幸子) さっきしゃべったことで、ゲップやオナラの元である牛を育てなくてもいいからね。

(幸郎) そう。食生活の中で肉は37%のたんばく質と、18%のカロリーを賄っている。食糧生産によって排出される温暖化ガスは全体の31%、その半分強は食肉生産による排出だからな。

(幸子) それを植物性人工肉に代えるから、その排出量はなくなる。

(幸郎) 完全に動物性肉食を止めれば、食糧生産で排出されるうち最大49%の排出ガスを減らすことができる。牛肉を食べるのを完全に止めてしまえば、33%減らすことができる。

(幸子) じゃあ、牛を悪者扱いすることもなくなるわね。

(幸郎) どの人間が他の動物が出すゲップやオナラについて文句が言えるかい？

(幸子) CO₂の大半は人間が出しているから、人間の生きることと

関係しているから、まずは人間が反省すべきことって言いたいのね。

(幸郎) そうだろ。あんたも人間。牛を不憫に思うなら、^も猛省しなさい!

(幸子) モウ省したいけどお、わたしにだけ要求されても、ねえ。

(幸郎) いいかげんなことばかりしくさってえ、人をバカにしてんのか! 責任者出てこい!

(幸子) 出てきたらどないすんのん?

(幸郎) 謝ったら、ええんやないかあ。

11. 大変なときだからこそ

(幸郎) まあ、みなさん聞いてください。人間の本性なんて、困ったときに一番はっきりと出ますなあ。

(幸子) あら、今度は人間の本性でホヤキますか?

(幸郎) 収まりかけた、新型コロナウイルスの感染者が減ってきたと落ち着いていたら、今度は変異株という新種のウイルスへの感染者数が急増して、3回目の「緊急事態宣言」(2021年4月25日以降)が出されたときは、腹の立つことがたくさんありました。

(幸子) 「まん延防止等重点措置」なんてルールも作られました。で、腹の立つことは?

(幸郎) 若い世代での感染が目立ってきたときです。

(幸子) その新たな変異株という別のウイルスがまん延しつつあったころですな。

(幸郎) ある大学の先生から聞かされました。

(幸子) あら、大学の先生とお付き合いがあったのですかあ。

(幸郎) 国や自治体からの要請に従い、授業は教室ではなく、リモート授業、パソコン画面を使ってしていたようです。

(幸子) Zoomとかいうものですね。

(幸郎) あらら、あなた、そんな言葉を知っていたのですか?

(幸子) そりゃあ、私もテレビのニュースを観たり、新聞を読んでい
ますから。

(幸郎) で、先生が言うには、ゼミナールという少ない人数でおこなう学生主体の授業を、そのZoomで始めたそうです。

(幸子) 少ない人数って、何人ですか?

(幸郎) 先生を含めて6人だそうです。

(幸子) 少ないと教えやすいでしょうねえ。

(幸郎) 私もそう思う。しかし、先生に教える気持ちがあっても教えられる側に……。

(幸子) あら、学生さんは高い授業料を払っているのだから、一生懸命、勉強しているでしょ。

(幸郎) 金を払っているのは親だ。学生は親の脛をかじっているだけ。授業料の価値など解かっちゃいない。

(幸子) でも、勉強だけはしている。学生の身分として。

(幸郎) ところが、Zoomの画面に写る学生の姿勢がすごい。

(幸子) 大学の教室へ行けなくて、きっと自宅でパソコンを使っているのでしょ。

(幸郎) 聞くと呆れまっせ!

(幸子) どう、呆れるの?

(幸郎) 自宅で、机に座って画面を見ていると思いますよな。

(幸子) 自宅とはいえ、勉強中ですから。

(幸郎) 違うんです。

(幸子) どう違いますかあ？

(幸郎) ソファに寝転がって画面を見ている者、大きな犬のぬいぐるみを抱えたり、上に投げつては受け取りして遊びながら、先生の声だけを聞いている者がいるそうです。

(幸子) あら。くつろいでいるの？ 先生は注意しますよね。

(幸郎) もちろん。「こんなときだからこそ自分で勉強をする習慣を身に付けるんですよ、身に付けるべきですよ」と、優しく諭したそうです。

(幸子) そのとおり。温かい声かけですねえ。ありがたいことです。

(幸郎) ところが、そう諭された学生は画面をオフにして真っ暗にしたそうです。

(幸子) コロナ禍中で、みんな貴重な時間を作って勉強しよう、してもらおう、と努力しているのに、遊んでいるとは？ その上、画面を消すなんて。

(幸郎) 先生は寂しそうに言っていましたよ。

(幸子) あら、何んて？

(幸郎) こんなことを書くのは恥ずかしい、って。一部の学生とはいえ、自分が勤務する大学のレベルが知れ渡る、って。

(幸子) でも、大学生になっても幼いわねえ。今どき、中学生でもそんな対応しないんじゃないかしら。

(幸郎) どう、思います？ こんな学生でも卒業して大卒者になるんですよ。

(幸子) 一応、卒業証書をもらいますから。

(幸郎) まだ、あります。

(幸子) えっ。まだ、ありますかあ？

(八)

(幸郎) 画面の向こうでソワソワしている学生がいたそうです。

(幸子) あら、どうしたのかしら。体調が悪いとか？

(幸郎) 先生は、訊きましたよ。「××君。自宅かい。どうかしたかい？」

(幸子) 普通は自宅のパソコンの前にはいますから。

(幸郎) ところが、何て答えたと思います？

(幸子) えっ。自宅じゃないの？

(幸郎) 違います。これが私の息子や娘であれば、中退させます。なんと、「アルバイト先の事務室です」「カフェにいます」と、しゃあしゃあと答えたそうです。これが大学生ですよ。

(幸子) アルバイト中ってこと？ 休憩中ってことですか？

(幸郎) 近頃の大学生は学力が下がっているとよく耳にしますが、こんなのでいいのですか。

(幸子) 自分が置かれている状況を何にも解っちゃいない。学力以前の問題ですよ。

(幸郎) 大学へ通わないで、高卒で働けばいいだろう。勉強する気持ちもないのだから。皆さんもご存知だと思いますが、大卒者になるだけで、高卒者よりも給料や生涯所得が高くなるんです。こんな姿勢で大学生をしても、卒業さえすれば、高給をもらうのですよ。

(幸子) で、あなたは何を言いたいのか？

(幸郎) 高卒者の給料をもっとアップして、大卒者は下げるか、据え置き！

(幸子) あんたのその気持ちも十分に解かります。でも、そんな学生ばかりじゃなくて、Zoomでもしっかり勉強している学生もいますから。

(幸郎) そんなことは承知している。世の中、少子化で若者の数が増

えなくて、余りにも若者たちを大事に、過保護にしすぎていませんか。ほんと腹が立つ。しっかり、せい！ でれっとしている大学生たちよ！ 授業料を取り戻すくらい勉強しろ！

(幸子) そろそろ怒鳴りませ！

(幸郎) いや、今日はまだ言いたいことが山ほどある。

(幸子) 言い足りませんか。

(幸郎) コロナ禍中、これ以外にも色んな不条理がありました。3 回目の緊急事態宣言を出したとき、政府と東京都が鉄道会社へ電車の減便を要請しました。

(幸子) 通勤時間帯の運行本数を減らす、間引き運転って言ってましたよ。

(幸郎) 減便して人の流れ(人流)を抑える目的があったそうです。

(幸子) 便数を減らして、乗客の蜜を避ける。

(幸郎) ところが、どうでした？ ゴールデンウィーク明けの 6 日の朝、逆に増えてしまいました。

(幸子) そうです。路線によれば、一部の列車の乗車率は 180% を超えましたよ。

(幸郎) これ、どこの誰がどう考えても減るわけないでしょ。どんなに在宅勤務を奨励しても、それでは仕事にならない人も大勢いるのですよ。場所は東京です。東京近辺から都心へ入ってくる人口数を見れば解りそうなものですが。おまけにゴールデンウィーク明けですからね。こんな政策を考えている政治家や官僚の頭の中はどうなっているのですかねえ。余りにも庶民感覚とズレちゃいませんか。

(幸子) あなたがボヤクのも領けます。

(幸郎) 学問で言えば、「政府の(意思決定の)失敗」の典型例です。

貴重な時間と金を無駄にしました。

(幸子) 一方で通勤者たちは感染のリスクに曝され、ヒヤヒヤしながら電車に乗っていたのでしょね。

(幸郎) みんな政府のバカさ加減に呆れて、こんな状況でもウイルスだけは吸い込まないぞ、と気合を入れ直したんじゃないかな。

(幸子) 自分の身は自分で守る。自助・共助・公助でしっつけ。

(幸郎) 止める！ 無責任な標語だ！ 最後にならないと、公は助ける気もないようだ。

(幸子) それでえ、この順番なのね。今、理解したわ。

(幸郎) もういい。不条理の極めつけは、高齢者へのワクチン接種の予約です。どうでしたあ。大変な騒ぎになってましたよ。

(幸子) そうそう。予約の開始後、希望する電話が殺到してわずか 5 分でコールセンターがダウン(応答不能)してしまっただよ。

(幸郎) それでも予約のできた高齢者は良かった。できなかった高齢者は諦め、グチをこぼして自分を慰めていましたよ。なんと情けないことか。

(幸子) グチをこぼしても解決しません。

(幸郎) 一番、可哀相なのがデジタル・デバイド。

(幸子) 何ですか？ 出っ歯が。

(幸郎) デジタル・デバイド。これはスマホとかインターネットとかの情報機器の操作に慣れていないが故に不利益を被ることです。

(幸子) なるほどお。お年寄りたちは固定電話しか使えないから。

(幸郎) この問題は、全くもって行政の知恵が足りなさすぎましたよ。公務員は普段から業務だけではなく自宅に戻ればもっと勉強

すべきだな。

(幸子) どんな勉強ですかね？

(幸郎) これに限らず、どうすれば住民たちが住み良い町にできるか、どうすれば住民税を下げて負担を軽減してあげられるのか、と。でなきゃあ、給料は高すぎる！ カットしろ！

(幸子) まあ、そう興奮しないで。で、どんな知恵があれば良かったのですか？

(幸郎) 高齢者順に受け付けるとか、住んでいる地域ごとを受け付けるとか、行政サービスとしてネットでの予約を代行するとか、とにかく順番を決めて予約をしてもらえば良かったと思う。簡単なことだ。

(幸子) なるほどお、それだとスムーズにいったかもしれませんね。今回は早い者勝ちだったから。

(幸郎) しかし、こうした予約の競争がおこなわれた背景には根本的な問題があった。

(幸子) どんな問題ですか？

(幸郎) ワクチンの供給量が明らかに少なすぎた。これに尽きる。

(幸子) それは国の責任でしょ。

(幸郎) すべての高齢者に接種できるだけワクチンがあれば、誰も焦って予約などしない。責任者、出て来い！

(幸子) 総理大臣でしょうね。呼んでも出てこない。出てきてはくれない。

(幸郎) だから、声をかけたんだ(笑)。

(幸子) その総理は最初に接種しましたよね。テレビで観ましたよ。

(幸郎) 自分も打つから国民も安心して打ってくれ、というプロパガンダだよ。

(10)

(幸子) プロパンでお湯を沸かしますかあ。

(幸郎) ……？ 誰から打つかという優先順位で許せないというか、人間の本性が見えました。

(幸子) みんな、感染したくないから、早く打ちたいですよ。

(幸郎) で、こんなおもしろい人間がいた。

(幸子) 大変なときにおもしろい人間？

(幸郎) 65歳以上に限って接種していたある町では、30代と40代の女性がお婆さんのふりをして(1回目のみ)接種を受けていたケースがありました。

(幸子) あらう、わざわざお婆さんに変装をして。

(幸郎) そう。まあ、これは感染したくないという庶民の悲しい知恵とあって、我慢もしましょう。

(幸子) そうですね。自己防衛ですから。

(幸郎) こんなこともありました。接種の担当者が「今日の接種分のワクチンは使い切りました」とウソを言って、何時間も並んでいた高齢者たちを会場から追い出し、その後、親族や知人呼び寄せて接種していた。

(幸子) 確かに、呆れますけど、そんな行動をとらせているのは国の責任ですよ。

(幸郎) ほく、あなたにしてはいい意見ですなあ。

(幸子) 褒めてくれます？

(幸郎) はい。もっと、呆れるのは住民の命を預かる政治家や役人たちです。

(幸子) 自分の命よりも住民の命を重んじる、そういう方が政治家や役人になってるんじゃないの？

(幸郎) それであれば、私はボヤかない。この漫才もない。いいかげ

(幸子) んな解釈ばかりして、抜け駆けしている政治家、役人がいる。いますかあ。

(幸郎) こんな役人がいた。その土地の名士と呼ばれる夫妻から優先的に接種をしたいと懇願され、副市長が根負けしたケースもある。

(幸子) それって……。

(幸郎) この件は接種前にバレしてしまって、頓挫した。

(幸子) そもそも接種を受ける優先順位を国が決めていましたよね。

(幸郎) そう。厚生労働省が示した「優先接種の考え方」によると、まずは感染者やその疑いのある患者に頻繁に接する機会のある者となっている。いわゆる「医療従事者など」だ。

(幸子) 例えば？

(幸郎) 大きく分けて4つある。①医療従事者(医者・看護師・職員)たち。薬局の薬剤師や職員。感染者を搬送する救急隊員や消防隊員、自衛隊員。コロナ対策をおこなう保健所の職員、ワクチン接種会場の従事者など。②65歳以上の高齢者。③基礎疾患のある人、高齢者施設などで働く人。④それ以外の人。

(幸子) 国は、はっきりと順位を決めますよ。

(幸郎) ところがあ、ある町の42歳の町長は接種会場の設置者なので医療従事者に準じる、と解釈して接種した。患者に接する業務をしていない薬局の社長も勝手に解釈して接種していた。これだけではないぞ！

(幸子) まだ、ありますか？

(幸郎) キャンセルが出れば、町長、副町長、教育長が接種することを担当者と相談の上、事前に決めていた。こんな事例がゾロゾロと出てきた。

(幸子) ゾロゾロって、まだいたの？

(幸郎) いたー。どこかの市長(62歳)は副市長(63歳)とキャンセルされた2人分のワクチン接種を受けていた。病院から打診されたそうで「ワクチンを廃棄することができず、やむを得ない状況だった」と説明している。

(幸子) その市長は「医療従事者など」に該当するの？

(幸郎) あなたはどう思う？

(幸子) 医療行為をしているわけじゃないから、明らかに従事者じゃない。

(幸郎) (パチパチと手を打ち) そのとおり。職業からして、市長は除外され、④の他の人に入る。

(幸子) 当の市長はどう解釈したの？

(幸郎) 国からの文書によると、キャンセルで余ったワクチンについては「別の者に接種できる方法を各自治体が検討する」と書いている。「決定は自治体に委ねられている」と言っている。

(幸子) でも、それを住民が納得してくれませんか。

(幸郎) ルールの中に例外を持ち込むのであれば、事前に市民から承認をとるべきだ。

(幸子) そのとおり。それが市の行政を任されている者のとる方法よね。

(幸郎) そうです。今日は、あなた、頭が冴えますね。例外を認めるのなら、市長自身が市民に向かって丁寧な説明をし、もし批判が出れば真摯に受け留める覚悟が必要だろ。

(幸子) それが市長の責任です。

(幸郎) (パチパチと手を打ち) あなたに座布団2枚あげたい。

(幸子) あら、2枚じゃなくて10枚ください。

(幸郎) コロナ禍でみんな大変なんです。住民を守る立場の人間がこ

（幸子） なんなのでいいのですか。

（幸子） いいわけがない。

（幸郎） みんな大変なんですよ。だからそれをまとめる人間には自己犠牲の精神さえ要求されているのです。大変なときだからこそ、みんなで協力して、この危機を乗り越えるのです。そのとき大切なことは……。

（幸子） 大切なことは？

（幸郎） 世の中で一番困っている人、弱い人から優先して助けるべきです。解ってんのか！

（幸子） そろそろ来ませ！

（幸郎） 大学生も政治家も役人も、しっかり自分のすべきことを反省しろ！ こんな人間に対して、あんたも遠慮せずに何か言っ
てやれ！ 言っ
てやらんかい！

（幸子） わたしに怒鳴れと言われても……。

（幸郎） いいかげんなことばかりしくさってえ、人をバカにしてんのか！ 責任者出てこい！

（幸子） 出てきたらどないすんのん？

（幸郎） 謝ったらしまいや！

— 全体の締め。

（幸子） アホ！ いつまでボヤいてンねや。この泥亀どろかめ！

（幸郎） （意気消沈して） かあちゃん堪忍！

（幸子） 何が、かあちゃんや！

（幸郎） （両手で拝むような仕草）ごめんちゃい！

（幸子） いいかげんにしときや！

（一一一）

（幸郎） わがまま勝ってなことばかり口にしまして……。

（幸子） 解ってんのかい！

（幸郎） お叱りの言葉もございませうが、これはわたくしの本心ではなく、世の中がわたくしに言わせるのです、ボヤかせるのです。この世の中は不条理ばかりなり。

（幸子） ウソつけー。自分が勝手にしゃべってるくせにー。

（幸郎） 笑いは健康の素、疲れた筋肉と脳細胞をほぐしてくれます。

（幸子） 何んや今度は薬局のネエちゃん、マッサージのオヤジさん
みたいなこと言うて。

（幸郎） 笑え、笑え、笑う門には福が来る。皆様のご健康とご発展を
はるか宇宙のかなたより……。

（幸子） どこが宇宙のー。

（幸郎） わたしのボヤキは単なるボヤキにあらず。人間の不条理（不合理）な行動を考察する行動経済学を考えるヒントに、少しはお役に立てたでしょうか。それを切に期待し、心よりお祈り申し上げて、「ボヤキ講座」を終了させていただきます。ご清聴賜り誠にありがとうございました。

（了）

参考文献。演題順に掲載している。新聞記事は『朝日新聞』である。

9…『新聞』「動物虐待摘発 最多1700件」2022年4月8日。

『新聞』「自治体調査 動物愛護行政は今」2022年3月26日。

『新聞』「パリ ペット店「やめるしか」「ペット店規制遅れる日本」「独

犬の檻 床面積細かに」2021年11月24日。

『新聞』「動物虐待厳罰化 悩む検察」2021年11月22日。

『新聞』「仏、ペット店で犬・猫の販売禁止」2021年11月20日。

『新聞』「逃亡防ぐGPS 課題は充電」2021年10月31日。

『新聞』「海外逃亡の恐れある被告 保釈中にGPS導入案」2021年9月9日。

『新聞』「猫の腎臓病 葉開発へ寄付の輪」2021年8月26日。

『新聞』「サザエさんをさがして ペット保険」2021年7月31日。

『新聞』「知って得 納得 猫を飼う」2021年5月1日。

『新聞』「譲渡会「開催しにくい」」2021年4月18日。

『新聞』「犬猫チップ装着に課題」2021年4月16日。

エミール・ゾラ(平岡敦訳)(2019)『猫の楽園』『世界シヨートセ

レクション』⑦ ゾラセレクション 猫の楽園 理論社、51〜63頁所収。

深川直美(2021)『ネコロボリス計画定例集』ホーム社。

10.. 『新聞』「米マック植物由来バーガー」2021年10月16日。

『新聞』「植物工場、人口増対策の切り札?」2021年9月19日。

『新聞』「のちゃんのDO科学 培養肉はどうやってつくるの?」

2021年6月12日。

藤原辰史(2020)『重装備社会の農業』『世界思想』47号』世界思想社、

55〜60頁所収。

『新聞』「牛の「げっぷ」メタン減らせ」2021年4月28日。

『新聞』「温暖化防止への肉食減」紹介「環境省×農水省」『メッセー

シ強すぎ』「反対」2020年8月19日。

『新聞』「羊・牛 げっぷ ストップ! 地球温暖化」2018年10月10日。

福永真弓(2020)『リスクがつくる肉食のかたち』『世界思想』47号』

世界思想社、50〜54頁所収。

11.. 『新聞』「薬局社長ら接種「不適切」 栃木23人「医療従事者」広く解釈」

2021年6月5日。

『新聞』「市長が医療従事者枠で接種」2021年5月15日。

『新聞』「首長の「優先接種」賛否」2021年5月14日。

『新聞』「天声人語」2021年5月13日。

『新聞』「鉄道減便で「蜜」人流抑制に疑問符」2021年5月12日。

その他の参考文献。

ウイキペディア 人生幸郎・生恵幸子、2021年4月19日。

エヤル・ヴィンター(青木創訳)『愛と怒りの行動経済学 賢い人は感情で

決める』早川書房。

ダン・アリエリー(櫻井祐子訳)(2019)『ずる 嘘とごまかしの行動経

済学』早川書房。

ダン・アリエリー(NHK白熱教室製作チーム訳)(2018)『アリエリー

教授の「行動経済学」入門』早川書房。

ダン・アリエリー(熊谷淳子訳)(2013)『予想どおりに不合理 行動経

済学が明かす「あなたがそれを選ばわけ』早川書房。

